

名古屋大学 ID の導入について－（Ⅱ）全学 ID からの移行－

平野 靖 間瀬 健二
梶田 将司

I. はじめに

2006年11月発行のセンターニュースに掲載されたシリーズ1回目では現行のID体系である全学IDを運用してきた上で顕在してきた問題点と、それを解決するために名大IDを導入することになった経緯、及び名大IDの概要をご紹介します。シリーズ1回目は下記のURLにアクセスしていただくとお読みいただけます。

[情報連携基盤センター]

http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/pub/pdf/pdf/vol05_04/316_320nice02.pdf

[NAGOYA Repository (名古屋大学機関リポジトリ)]

http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/dspace/bitstream/2237/7212/1/316_320nice02.pdf

シリーズ2回目となる今回は、名古屋大学IDの移行に関する基本的な考え方をご説明します。さらに、移行スケジュールに関しては、名古屋大学内で学内情報サービスの運用を行なっている方と、一般の利用者の方のそれぞれに対してご説明します。

II. 移行に関する基本的な考え方

前回、簡単にご説明しましたが、導入にあたっては、現行の全学IDから名古屋大学IDへのスムーズな移行を基本とします。つまり、学生・教員・職員などの名古屋大学構成員、及び学内情報サービスプロバイダの両者とも、移行に伴う混乱がないように進めていくことを目標とします。具体的な移行手順に関しては次節で説明しますが、ここでは基本的な考え方を説明します。

まず、情報連携基盤センターが発行するセンターニュースや、各部局を経由した事務連絡メールなどで宣伝を行い、全構成員に周知を行います。さらに、十分な長さの移行期間（5年間程度）を設け、この期間は全学IDと名古屋大学IDの両方を使える状態にします。すでにサービスを提供されている学内情報サービスは、この期間内に移行を完了していただくようお願いいたします。

なお、今回の移行では、まず平成19年10月に教員と職員のIDが名古屋大学IDに移行し、平成20年4月に学生のIDが移行する予定です。本来であれば、同時に移行すべきところですが、教員・職員のID移行の緊急性が高いこと、及び現有システムで学生のIDを移行することが困難であることから、教員・職員と学生の2段階で移行せざるをえないことをご理解ください。また、現在、名古屋大学内では、情報連携基盤センターが提供する認証システムを利用するさまざまな

学内情報サービスが稼動しています。これらのすべてを一度に名古屋大学 ID に移行することは困難ですので、移行期間内に徐々に移行していく計画です。そのため、移行期間中は全学 ID と名古屋大学 ID が混在することとなりますが、ご容赦ください。

Ⅲ. 全学 ID から名古屋大学 ID への移行スケジュール

1 全体スケジュール

名古屋大学 ID への移行は、全学認証サーバの移行、学内情報サービスプロバイダの移行、及び名古屋大学構成員の移行という 3 種類の移行を経て行われます。なお、本原稿では、部局などで学内向けの情報サービス（例えば、研究者プロフィールや名大ポータルなど。表 1 をご参照ください）を運用されている方を学内情報サービスプロバイダと呼びます。

以下、情報連携基盤センターが行う作業や、情報連携統括本部から学内情報サービスプロバイダと名古屋大学構成員にお願いする事項をご説明します。詳細が決まり次第、随時ご案内していきます。移行までのスケジュールを図 1 に示します。

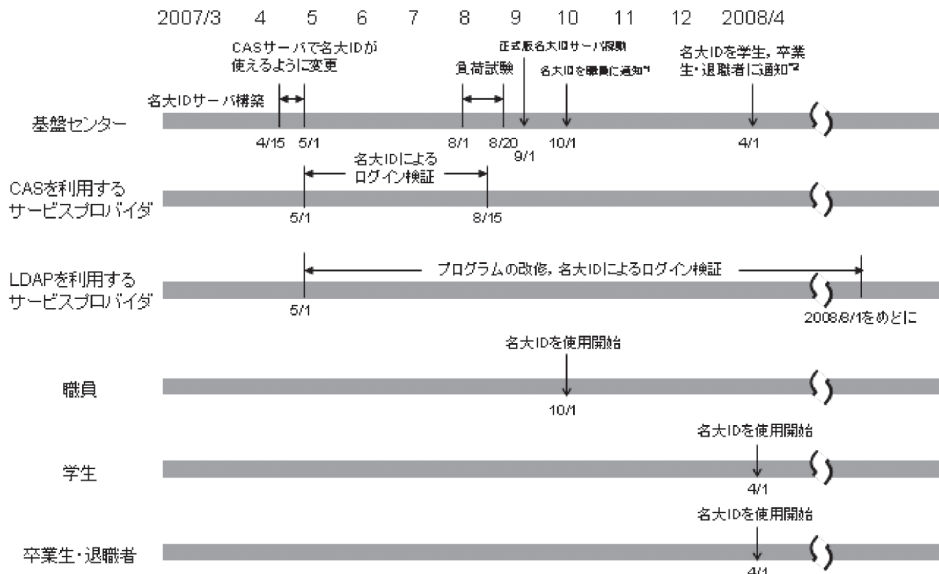


図 1 移行スケジュール

2 全学認証サーバ

名古屋大学には、大きく分けて LDAP サーバと CAS サーバという 2 種類の全学認証サーバが存在し、部局などが運営する学内情報サービスの種類によって利用する全学認証サーバが異なります。主に、CAS サーバは Internet Explorer や Firefox などアクセスする学内情報サービス（学内 Web アプリケーション）に対して認証を行い、それ以外の学内情報サービスに対しては LDAP サーバが認証を行っています。さらに、LDAP サーバも 2 種類あります。これらは表 1 の

LDAP (NDS) と LDAP (iDS) で、前者は情報メディア教育センターの機器を利用する際の認証で、後者は情報メディア教育センターの機器でも学内 Web アプリケーションでもない学内情報サービスを利用する際の認証で使われます。ただし、どの全学認証サーバも認証のためのデータベースは同一ですので、どの全学認証サーバにアクセスしても全学認証サーバに格納されている情報 (ID やパスワード、所属部局名など) は同一となります [1]。

部局などが運営する学内情報サービスで名古屋大学 ID を使用できるようにするためには、①上記の全学認証サーバに名古屋大学 ID を格納する、及び②全学認証サーバが学内情報サービスに対して名古屋大学 ID による認証サービスを提供できるように変更する、という 2 つの作業を行う必要があります。①に関しては、すでに原稿執筆時点 (平成 19 年 3 月) で実行中です。いずれの作業も平成 19 年度早々に終了します。なお、現在行われている全学 ID での認証に影響がないように、上記の作業を行っていますので、ご安心ください。また、後述するように、学内情報サービスプロバイダの皆様が、プログラムのテストをしていただけるように、検証用の全学認証サーバの構築も行います。

3 学内情報サービスプロバイダ

全学認証サーバで、名古屋大学 ID による認証を利用できるようになった後、各学内情報サービスで使用される認証用 ID を全学 ID から名古屋大学 ID に移行していただきます。ただし、さまざまな学内情報サービスが稼動しておりますので、すべての学内情報サービスが同時に移行することは困難であると考えます。そこで、この節では、「名古屋大学 ID 導入時に移行できる学内情報サービス」、「移行に時間を要する学内情報サービス」、及び「情報メディア教育センターのシステム更改に合わせて移行する学内情報サービス」の 3 種類に分けて説明します。なお、現在、表 1 に示す学内情報サービスが全学認証サーバを利用してユーザ認証を行っています。この表では学内情報サービスを、2 種類の全学認証サーバ (LDAP サーバと CAS サーバ) で分類しています。さらに、LDAP 認証を行っている学内情報サービスのうち、LDAP (NDS) と書かれた 2 つの学内情報サービスに関しては、情報メディア教育センターが導入し、情報連携基盤センターに移管された LDAP サーバを用いて運用されており、情報メディア教育センターのシステム更改に合わせて名古屋大学 ID へ移行されます。

つぎに、学内情報サービスプロバイダの方にプログラムの改修を行っていただく際の選択肢をご説明します。

- ▶ 選択肢 1 : プログラムの改修を行い、名大 ID と全学 ID の両方で認証できるようにするとともに、データベース内に記録された全学 ID を名大 ID に書き換えていただく。
- ▶ 選択肢 2 : プログラムの改修を行い、名大 ID と全学 ID の両方で認証できるようにしていただく。ただし、学内情報サービス内のデータベースの書き換えは行わない。この際、名大 ID サーバ、及び CAS サーバは名大 ID に対応する全学 ID を学内情報サービスプロバイダに渡すように設定します。なお、CAS サーバによる認証を受ける学内情報サービスではプログラムの改修を行わなくても選択

表1 全学認証サーバを利用してユーザ認証を行っている学内情報サービス
(平成19年3月現在。予定を含む)

認証サーバ	利用部局など	システム	主たる利用者
LDAP (iDS)	附属図書館	図書館情報システム	学生・教員・職員
	情報科学研究科	教育・研究用先端計算機システム	学生・教員・職員
	情報科学研究科	アカデミックコミュニティシステム	学生・教員・職員
	核燃料管理施設	核燃料物質管理システム	教員・職員
	情報連携基盤センター	メールエイリアス実験サービス	学生・教員・職員
	情報連携基盤センター	名古屋大学 IP アドレス管理システム	教員・職員
	情報連携基盤センター	registmail	学生・教員・職員
	情報連携統括本部	名古屋大学無線ネットワーク	学生・教員・職員
	情報連携基盤センター	Security incident DB	教員・職員
CAS	研究協力・国際部国際課	外国人研究者等受入れデータベース	教員・職員
	研究協力・国際部国際課	学術交流協定校データベース	教員・職員
	研究協力・国際部国際課	海外留学データベース	学生・教員
	情報メディア教育センター	WebCT	学生・教員
	研究者統合データベース連絡会	教員プロフィール	教員
	学務情報システム推進委員会	教務システム	学生・教員
	工学部	会議資料参照システム	教員・職員
	法学部	ZOPE, Plone	学生・教員
	法学部	法的知識理解度確認システム：学ぶ君	学生・教員
	法学部	お助け君ノート	学生・教員
	医学部医学科	ゼミ室予約システム	教員・職員
	留学生センター	現代日本語コース中級 聴解	学生・教員
	情報連携基盤センター	名古屋大学ポータル	学生・教員・職員
LDAP (NDS)	情報メディア教育センター	ホームページ	学生・教員
	情報メディア教育センター	教育用システム	学生・教員

肢2を選んでいただくことが可能です。

- ▶ 選択肢3：プログラムの改修、及びデータベースの書き換えは当面行わないが、バージョンアップ時などのタイミングで選択肢1あるいは2の対応をしていただく。

下記3.1及び3.2で、選択肢1, 2を選んでいただいた場合及び選択肢3を選んでいただいた場合の簡単なお説明をいたします。

3.1 名古屋大学 ID 導入時に移行できる学内情報サービス

全学認証サーバのうち、CASサーバを利用しているものは名古屋大学IDの導入と同時に、名古屋大学IDによる認証が行えます。構成員から見ると、どのサービスがCASサーバで認証を行っているのかわからないかもしれません。学務システムや名古屋大学ポータルなどを利用する際に、図2の画面を見たことがあると思います。この画面が出てきたら、その学内情報サービスはCASサーバによる認証を行っています。

また、LDAPサーバを利用している学内情報サービスの一部も、名古屋大学ID導入に合わせて、名古屋大学IDで認証が行えます。これらの学内情報サービスプロバイダの方には、5月初旬～

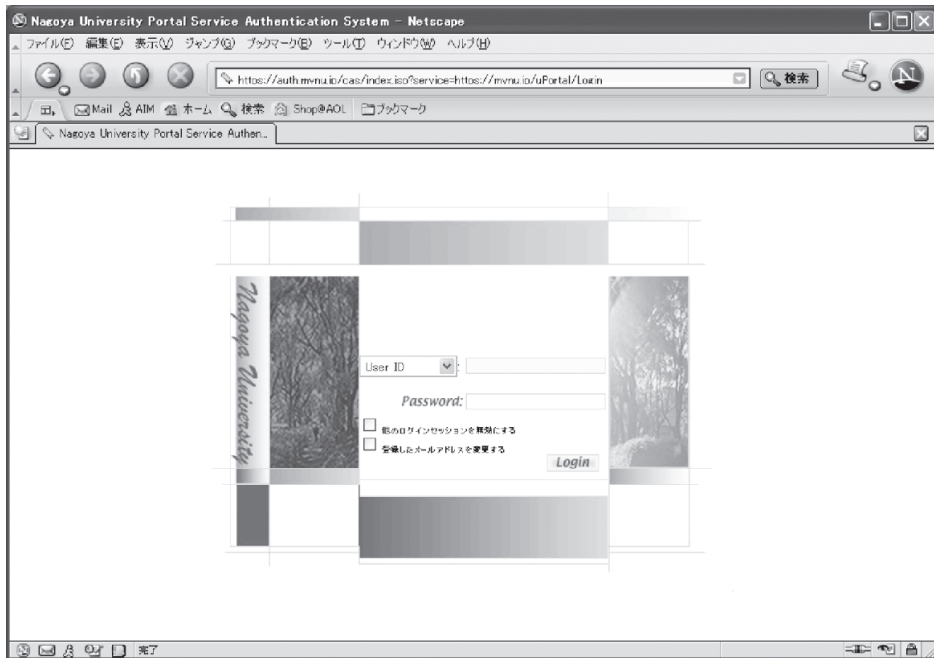


図2 CASサーバを利用する学内情報サービスでの認証画面

8月中旬にかけて、プログラムの修正、及び全学認証サーバへの接続実験を行っていただき、名古屋大学IDを使った認証が行えることを確認していただきます。

具体的にどの学内情報サービスがすぐに移行するののかは、学内情報サービスプロバイダと調整のうえ、ご案内していきます。

3.2 移行に時間を要する学内情報サービス

学内情報サービス側のプログラムやデータベースに対して大幅な修正を行う必要のあるものの移行は、名古屋大学ID導入後もしばらくの間は、全学IDでの認証しかできません。長期にわたって全学IDと名古屋大学IDが並存する状況は構成員の混乱を招くため、このような学内情報サービスに関しても、名古屋大学IDへの移行をお願いするとともに、情報連携統括本部による移行のための経費調達を行ったり、情報連携基盤センターによる技術的サポートを行ったりしていきます。

3.3 情報メディア教育センターのシステム更改に合わせて移行する学内情報サービス

情報メディア教育センターに導入されている教育システムは、認証サーバ（表1のLDAP(NDS)）と密接に関連しており、改修には多額の経費が必要となるため、ユーザ認証に用いるIDの変更は困難です。そこで、LDAP(NDS)を認証サーバとして用いている学内情報サービスに関しては、2008年2月に行われる情報メディア教育センターのシステム更改にあわせて名古屋大学IDへ移行します。情報メディア教育センターの主たるユーザが学生であり、教員・職員に比べて学生が名古屋大学IDに移行する緊急性が低いことが、学生と教員・職員の移行時期をずらしたことの理由の一つです。LDAP(NDS)を認証サーバとして用いる学内情報サービス

の移行が完了したら、学生も名大 ID へ正式に移行することになります。なお、全学メールサービス（メールアドレスの末尾が @mbox.nagoya-u.ac.jp のメールサービス）も LDAP（NDS）を認証サーバとして用いていますが、このサービスは情報メディア教育センターのシステム更改に先立って名大 ID を使えるようにすることが計画されています。システム更改が就職活動の時期と重なっていることが原因で学生の皆さんにご迷惑をおかけしたり、システム更新の際に1ヶ月間程度、全学メールが利用できなくなったりという不便を解消するためです。全学メールサービスの更新に関しては、混乱を生じないように、最大限の努力をしますのでご理解ください。

4 名古屋大学構成員

全学認証サーバ、及び学内情報サービスプロバイダで名古屋大学 ID を使えるようになった後は、いよいよ名古屋大学構成員の方にも名古屋大学 ID を使っていただきます。教員・職員には10月初旬から名古屋大学 ID の配布を行います。また、学生に関しては、平成20年4月から、新生に配布し、4年間で全学生に名古屋大学 ID の配布を完了します。したがって、平成20年度に2年生（学部、大学院とも）以上に在籍する方は、従来どおり、全学 ID を使い続けていただくことになります。なお、名古屋大学 ID に対応するパスワードは、全学 ID のものと同じですので、改めてパスワードを覚えなおしたり、変更したりといった手間はありません。

名古屋大学 ID の配布方法につきましては、職員証・学生証の IC カード化にあわせ、職員証・学生証の券面に名古屋大学 ID を印刷する予定です。

IV. まとめ

移行スケジュールに関しては、詳細が決定することにご案内をする予定です。次号では、名古屋大学のユーザ認証に関する将来構想を紹介したいと思います。名古屋大学 ID に関するご質問・ご要望については「名古屋大学 ID 推進・運用ワーキンググループ」主査の間瀬 (mase@nagoya-u.jp) までお問い合わせください。

参考文献

- [1] 平野 靖, 内藤 久資, 梶田 将司, 小尻 智子, 間瀬 健二: 名古屋大学のユーザ認証基盤の現状, 平成18年度国立情報学研究所オープンハウス シンポジウム - 最先端学術情報基盤 (CSI) の構築に向けて - 講演予稿集, pp.41-45, 2006.6
- [2] 内藤 久資, 梶田 将司, 小尻 智子, 平野 靖, 間瀬 健二: 大学における統一認証基盤としての CAS とその拡張, 情報処理学会論文誌, 47, 4, pp.1127-1135, 2006.4

(ひらの やすし: 名古屋大学情報連携基盤センター准教授,

情報連携統括本部情報戦略室名古屋大学 ID 推進・運用ワーキンググループメンバ)

(ませ けんじ: 名古屋大学情報連携基盤センター教授, 情報連携統括本部情報戦略室兼任)

(かじた しょうじ: 名古屋大学情報連携基盤センター准教授, 情報連携統括本部情報戦略室兼任)